

GRANSHIP
Mozart 5 Days

開館1周年記念事業

グランシップ・モーツァルト5days



Wolfgang Amadeus Mozart

モーツァルトモーツァルトモーツァルト!

もっともチャーミングな天才音楽家、モーツァルトをめぐる5日間。

3・20^祝 Sense of モーツァルト出演●宮本亜門 ●銅鐵健 ●足立さつき
●斎藤晴彦 ●多田曜子 ●メーブル弦楽四重奏団3・16^木 Discover of モーツァルト

出演●羽田健太郎 ●斎藤晴彦 ●メーブル弦楽四重奏団

3・17^金・3・19^日 Enjoying of モーツァルト

3・17●フィガロの結婚 3・18●魔笛 3・19●ドン・ジョヴァンニ



覗いてほしい。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト。名だたる大作曲家の中でも、彼ほど愛され、親しまれ、逸話に満ちた人物はいないだろう。その証拠に、現在、CDに収録されている曲数では他の追隨を許さず、軽く1万は超えるという。かの有名なアイネ・クライネ・ナハトムジークにいたっては、これ一曲で60盤以上あるというから驚きだ。こうなるともう、自分が生きていくうちに彼のCDをなんとか全部買うことはできても、すべてを聴くことは物理的に言うてかなり不可能に近い、というところになる。さて、そこで提案なのだが、そんなモーツァルトの、いわゆるオイシイところだけを5日間で楽しむ、そういうプログラムがあるとしたら、どうだろうか。開館1周年を迎えたグランシップがアンバーサリ企画としておこなうモーツァルト5days。音楽的にはもちろん聴き応え、見応え十分。しかもユニークなトークゲストがモーツァルトを楽しく解剖してくれるというから、モーツァルティアン(モーツァルトファン)ならずとも必見。チャーミングな天才モーツァルトの魅力の一端をぜひ、春のグランシップで覗いてほしい。

モーツァルトはいかが？

この世にモーツァルトに関する著書はゴマンとあるが、描かれているモーツァルト像はどれも少しずつ違う。そこには常に新たな謎が折り込まれ、同時に新たな見解が記されている。もしかしたら、それは彼が天才でありながら、天才らしからぬスキだらけの生き方で周辺を圧倒し、事あるごとにモーツァルトという人間臭さをふりまいたせいかもしれない。

とにかくこの大音楽家にはさまざまな憶測と見解を許す、そうした灰色の不可思議な部分が残されており、それゆえ興味は尽きないのだが、なにしろ相手はクラシックである。映画『アマデウス』を見て、彼に近しい感じを感じた人も少なくないと思うが、現代音楽に親しむようにモーツァルトを聴くには、あともう一押し足りなかったのではないだろうか。そこで、ぜひともオススメしたいのがこのイベント、グランシップ開館1周年を記念して開催される『モーツァルト！モーツァルト！モーツァルト！』である。

◆オペラを楽しむなら、せめてストーリーぐらいは知っておきたい。さらに余裕があれば、こんな本がオススメ。絵本スタイルで原語と訳、そしてCDまで付いている。モーツァルト関連には、こうした遊び心に富んだ書物も出ているので、探してみるのも楽しい。『The Magic Flute (魔笛)』著者／牧野良幸 発行／飛鳥新社

ハイビジョンオペラシアター

Enjoying of モーツァルト

人気のオペラを日替わりで。400インチの感動上映。

続く3月17日からの3日間は、ヘンリー・ジョー・モーツァルトで人気のオペラが日替わりで楽しめる。今なお世界中で上演され続けているモーツァルトオペラだが、人気のライオンナツから『フィガロの結婚』『魔笛』『ドン・ジョヴァンニ』の3作品をセレクト。しかも世界最高峰の名演とされる感動の舞台をグランシップ中ホール・大地においてハイビジョン上映する。400インチの画面から放たれる迫力の映像は、臨場感も満点。しかも、各上映の前には、中部大学教授の都築正道氏が観てこそ、聴きどころを興味深く紹介する。

『フィガロ』と『ドン』の舞台は17世紀のスペイン、『魔笛』は架空の時代のエジプトの話で、前2作はイタリア語で、後者はドイツ語で書かれている。モーツァルトの音楽は、ヨーロッパ各地の音楽スタイルを総合した上に花開いているといわれるが、オペラ作品を通してみると、それがよくわかる。オーストリアのザルツブルグで生まれたモーツァルトは、人生の3分の1を馬車の中で過ごしたという。当然その旅はプロの音楽家としての旅だ。

Discover of モーツァルト 彼の時代へタイムスリップ。名曲誕生の秘話が明かされる！

このビッグイベントは、大きく分けて3つのプログラムで構成される。まず、初日はモーツァルトの生きた時代（と言っても、わずか35年だが）や交友関係、名曲誕生にまつわるエピソードなどをトーク・コンサートのスタイルで綴るDiscover of モーツァルト。

モーツァルトが生きた1756年から1791年の間、ヨーロッパはイギリス産業革命、フランス革命など歴史の転換期にあり、ウィーンでは女帝マリア・テレジアが皇位に就いていた。その女帝にモーツァルトは6歳のとき初めてシェンブルン宮殿で拝謁を許されている。映画『アマデウス』の中で、モーツァルトは下品で、粗野で、ときおり奇声を発するとんでもないキャラクターとして登場しているが、その際の彼も相当のやんちゃぶりだったようで、女帝の膝に飛び乗り、抱きついてキスをし、皇女マリア・アントワネットにお嫁さんにしてあげる、といったとか、言わなかったとか。マリア・テレジアは16人とかかなりの子で、夫フランツ一世の没後は、長男ヨーゼフ二世を皇帝とし、共同統治していた。そし

たが、生涯の足跡はほぼヨーロッパ全域に及ぶ。テレビやラジオ、レコードすらなかった時代、その土地に根づく音楽を学ぶためにはそこに赴くしかなかった。結果、彼は独仏英伊のほかラテン語の5ヶ国語を流暢に操り、さまざまな音楽様式や楽派、作曲家たちと出会っていたのである。

また、彼のオペラには、女性への彼自身の愛情と尊敬の念が映し出されており、とりわけ女性の主人公の中に高徳、高貴、高潔さを求めていることがその音楽からうかがえる。そのあたりのことも踏まえて鑑賞に望んだらば、また少し違ったモーツァルトが見えてくるかもしれない。



◆モーツァルトに題材を求めた映画、舞台は数多いが、34年公開の映画『アマデウス』ほど人々の耳目を集めた作品はない。アカデミー作品賞、監督賞、主演男優賞、衣裳デザイン賞、音響賞など、多くの賞を総ナメにした。史実と異なる点はあるが、モーツァルト入門には最適珠玉の1本。製作／ソウル・ゼイツ、監督／ミロス・フォアマン、原作・脚本／ピーター・シェファア、出演／F・マリー・エイブラハム、トム・ハルス他。（協力／(株)すみや）

Enjoying of モーツァルト

3/17[金]～19[日]
ハイビジョンオペラシアター

■グランシップ中ホール・大地
■全席自由 無料(要整理券)

Le Nozze di Figaro
3/17[金]

フィガロの結婚〈全4幕〉

開場PM1:30 開演PM2:00
開場PM6:00 開演PM6:30

【指揮】クラウディオ・アッパード

【管弦楽】ウィーン国立歌劇場管弦楽団

【収録】アン・デア・ウィーン劇場(1991年5月)

【あらすじ】

伯爵の従者フィガロと伯爵夫人の侍女スザンナは恋人同士。ところが伯爵がスザンナに、小姓ケルビーノが伯爵夫人に横恋慕したことから、思わぬ騒動が起こる。最後は伯爵をうまく出し抜いて、フィガロとスザンナは無事に結婚する。
作曲／1785～86 台本／ロレンツォ・ダ・ポンテ
初演／1786、ウィーン

Die Zauberflöte

3/18[土]

魔笛〈全2幕〉

開場PM1:30 開演PM2:00

【指揮】サー・ゲオルク・ショルティ

【管弦楽】ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

【収録】ザルツブルグ祝祭大劇場(1991年7月～8月)

【あらすじ】

旅の王子タミーノが夜の女王の娘パミーナを救い出すため、パパゲーノを従えてザラストロの館へと赴く。ザラストロのもとでさまざまな試練を乗り越え、タミーノとパミーナ、パパゲーノとパパゲーナは結ばれる。夜の女王は闇へと落ちる。
作曲／1791 台本／ヨハン・エマヌエル・シカネーダー他
初演／1791、ウィーン

Don Giovanni

3/19[日]

ドン・ジョヴァンニ〈全2幕〉

開場PM1:30 開演PM2:00

【指揮】クラウディオ・アッパード

【管弦楽】ウィーン国立歌劇場管弦楽団

【収録】ウィーン国立歌劇場(1990年5月)

【あらすじ】

ドン・ファンの放蕩と地獄落ちを題材にした作品。好色な貴族ドン・ジョヴァンニは従僕レポレルロとともに騎士長の娘ドンナ・アンナたちと恋のかけひきを繰り広げるが、最後には地獄の業火に包まれる。
作曲／1787 台本／ロレンツォ・ダ・ポンテ
初演／1787、プラハ



羽田健太郎

Kentaro Haneda

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒。卒業と同時にピアニスト及び作曲、編曲家として活動。クラシック界で本格派のコンサートピアニストとして活躍する一方、多彩な才能を発揮し、映画・テレビ番組・CM音楽の作曲、ミュージカル等の音楽監督などを務め、高い評価を得る。ジャンルにこだわらない音楽づくり、ユーモアに富んだ人間性で各界で人気のマルチアーティストである。

Haruhiko Saito

早稲田大学第一文学部演劇学科卒。青俳、発見の会を経て、71年演劇センター68/69に参加。91年黒 TENT 代表となる。東宝ミュージカル『レ・ミゼラブル』をはじめ、数々の演劇、ミュージカルに出演のほか、テレビ・映画・CMでも活躍。著書に『斎藤晴彦 [音楽] 術・モーツァルトの元談』『クラシック音楽自由自在』等、クラシック音楽への造詣も深い。

斎藤晴彦



SOLD OUT

3/16[木] 開場PM6:30 開演PM7:00

Discover of モーツァルト

出演●羽田健太郎●斎藤晴彦●メーブル弦楽四重奏団

■グランシップ6F交流ホール

■全席自由(ドリンク付・税込)／4,500円

Sense of モーツァルト アリアは楽し。トークも愉し。 豪華ゲストによる夢のステージ。

さて、千ツアルト尽くしのラスト・
ディは「Sense of モーツァルト」で
お楽しみを。ここでの聴きモノは、な
んといっても錦織健、足立さつきとい
う日本オペラ界きうてのエンタティナー
二人によるアリア。『フィガロの結婚』
では伯爵夫人の嘆きのアリア、『魔笛』
では夜の女王のアリアなど、見せ場
を盛り上げる際に付きモノのアリア
は、言ってみれば、オペラの中のもの
もオイシイ部分。千ツアルトの代表
的なアリアが次々と聴けるというこ
とは、ある意味贅沢でもある。日頃
オペラにまったく馴染みのない人
でも、聴き覚えのある旋律がきくと出
てくることだろう。そして、このアリ
アを聴くだけでも、千ツアルトの天
才ぶりがわかるというものだ。

そもそもクラシック音楽界におい
て天才を冠する者は少なくないが、
彼自身、己の天賦の才に気づいて
おり、父親宛ての手紙にも、親切な
神が与えてくださったこれほどまで
に豊かな作曲の才能を埋らせておく
ことは許されないことだし、そう
できるわけもないのです」と記して
いる。しかし、わずか35年余りの生涯
では、自分の才能を使い果たせず、

今頃はウィーン郊外の共同墓地でさ
ぞかし悔しがっていることだろう。

さて、そんな一人の天才の人間性、
音楽性を独自の視点でひもどく
は、演出家宮本亜門氏。さらに斎藤
晴彦氏、ピラノに多田聡子氏、弦楽
四重奏団を迎えて、アリアとトーク
のファンタスティックなコンサートが開
かれる。

この5日間をいい機会に、千ツア
ルトと正面から向きあうもよし、ま
たナメに眺めるもよし。かつて彼が
馬車に揺られ、ヨーロッパを東へ西へ
渡っていったように、我々もまたその
調べに揺られながら、千ツアルトと
いう旅を楽しむのも悪くないのでは
ないだろうか。

G



幕が開いて、一瞬のうちに不特定多数の目に晒される。
あの緊張感が私を舞台衣装へと駆り立てるんです。

下斗米 雪子

オートクチュールデザイナーで
ある氏が舞台衣装を手掛けるよ
うになって8年。アトリエには多
くの作品が並び、手にとれば、す
ぐさま舞台上のキヤラクタイが脳
裏に甦る。

「オートクチュールの場合、どん
なに丹精込めてもその作品はお
客さまのもの。代金と引き替え
に私のもとから去ってしまうもの
なんです。けれど、舞台衣装
はここに残る。しかも、一瞬にし
て不特定多数の目に晒されると
いう緊張感、醍醐味を私に与え
てくれるんです」

地元名古屋を始め三重や岐阜
奈良、東京などで数々のオペ
ラ公演に関わってきたが、特に印
象に残るのが大学生の卒業公演。

「卒業公演では、おそらくそれ
はその人が着る生まれて初め
てのオペラ衣装なんです。そし
て、今後スターとして歩む人
にとっては最初の衣装であり、ある
人にとっては最初で最後の衣装
かもしれない。つまりとてもメモ
リアルな衣装なんです」

素の自分から、劇中の人物へ
演者たちを誘う大きな力となる



のが舞台衣装である。
「演出家やマエストロがよく言
うのですが、音楽稽古ではノリが
悪いけれど、衣装合わせをした
途端、芝居がよくなるらしいん
です」

さまざまなタイプの舞台衣装
家がある中で、氏は時代考証を
もとにしたベーシックなデザイン
を基本としている。ただ長年オー
トクチュールに携わるその経歴か
ら、どうしても生地や附属品の
グレードにこだわってしまうとい
う。客席からはそこまで見えない
んですけどね、と笑う氏が好き
だという千ツアルトオペラは『ド

ン・ジョバンニ』や『フィガロの結婚』。

「千ツアルトオペラはイタリア
オペラのように恨み辛みを歌った
り、歴史的背景を背負った重たい
ものでなく、ちょっとイタズラし
たとか、ちょっと嘘ついたとか、そ
ういう遊び心があるので、ラクな
気持ちで楽しめるんじゃないです
か。衣裳的にもロココ調の華やか
な雰囲気がありますし」

照明があたると、途端に生命
が吹き込まれたように舞台の上
に息づく衣装たち。そうした作
品が今回特別に氏から提供さ
れ、中ホール・大地のホワイエで間
近に見ることができ。

G

Yukiko Shimotomai

30数年にわたりオートクチュールデザイナーとして活躍。92年に名古屋二期会の『子供と魔法』(たかべしげこ演出)で初めて舞台衣装の制作を担当し、その後はオペラを中心とした舞台衣装の制作にも積極的に取り組む。主な作品に 97年の名古屋芸術大学オペラ公演 オペレッタ『メリー・ワイドウ』、98年の岐阜演奏家協会 オペレッタ『こうもり』、愛知県立芸術大学大学院オペラ公演『フィガロの結婚』、99年のみかわ室内管弦楽団オペラ公演『コン・ファン・トゥンテ』など。(株)エフ・ジー・ジー／アトリエユキ主宰。

同時開催

Sub Event

3/17[金]~19[日] モーツァルト・オペラ衣装展

■グランシップ中ホール・大地ホワイエ

■衣装提供／下斗米雪子

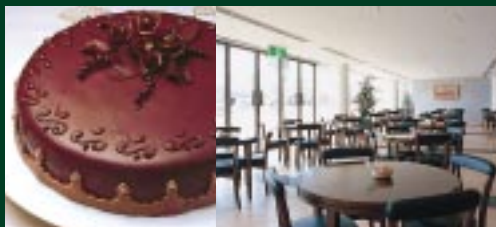
数々のオペラの衣装を手掛けているオートクチュールデザイナー下斗米雪子氏の作品の中から、モーツァルトオペラで使用の豪華な衣装を展示。劇中の人物とオペラ歌手とを繋ぐ舞台衣装には独特のオーラがあり、まるで不思議な魔力が潜んでいるかのよう。とりわけ18世紀ヨーロッパの貴族の世界を彷彿とさせる重厚で華やかな衣装は必見。



3/4[土]~20[月・祝] モーツァルト・デザートフェア

■カフェテリア燦

モーツァルトが演奏の旅で訪れたパリ・ロンドン・ベルギー・ウィーンのデザートを中心に、パティシェが今回のために特別に考案したデザートが期間中の特別メニューとして登場。



錦織健 Ken Nishikiori

国立音楽大学卒。山口興輔氏に師事。86年オペラ・スタジオ第5期修了後、文化庁在外研修員としてミラノに留学し、リア・ガリーニ、アルベルト・ソレジーナの両氏に師事。『こうもり』のアルフレード、『魔笛』のタミーノ、『ドン・ジョバンニ』のドン・オッタービオ等、数多くのオペラに出演。また、リサイタルでもジャンルを問わない多彩なプログラムと巧みな話術でファンを魅了している。二期会会員。



足立さつき Satsuki Adachi

武蔵野音楽大学卒、同大学院修了。二期会オペラ・スタジオ第30期修了。87年『椿姫』のヴィオレッタでオペラ・デビュー。以降『こうもり』のアデーレ、『フィガロの結婚』のスザンナ等を演じ、清冽な声と華やかな容姿で聴衆を魅了。97年にはザルツブルグのモーツァルトフェスティバルにて開催の『ウィーン・オペレッタ・オーケストラ』のニューイヤーコンサートにゲスト出演した。二期会会員。



宮本亜門 Amon Miyamoto

出演者、振付師を経て、2年間ロンドン及びニューヨークに留学。帰国後、87年のオリジナルミュージカル『アイ・ガット・マーマン』で演出家としてデビュー。翌年には同作品で文化庁芸術祭賞を受賞。ミュージカルのみならず、ストレートプレイ、オペラ等の演出も数多く手掛け、現在最も注目される演出家の一人。著書に『亜門日記・極私的オペラ考』がある。

チケット好評発売中

3/20[祝] 開場PM6:00 開演PM6:30

Sense of モーツァルト

出演●宮本亜門●錦織健●足立さつき

●斎藤晴彦●多田聡子●メーブル弦楽四重奏団

■グランシップ中ホール・大地

■全席指定(税込)／4,500円

多田聡子 Satoko Tada



斎藤晴彦 Haruhiko Saito



グランシップマガジン 8

Program-1

GRANSHIP PRESENTS
TATUYA ISHII 2000 CONCERT TOUR

“DRAGASIA”

～Welcome to ASIAN DISCO～

4.29.sat.

Program-2

TATUYA ISHII

“DRAGASIA”
TALK SHOW

5.3.wed.

Program-3

TATUYA ISHII

“DRAGASIA”
MARKET

5.3.wed.▶7.sun.

Program-4

TATUYA ISHII

MOVIE COLLECTION

5.4.thu.▶7.sun.

GRANVOYAGE FESTIVAL 2000
DRAGASIA

龍蛇楼

～ユートピア誕生～

4.29/5.3▶7

DRAGASIA 総合プロデューサー

石井竜也

2000年、龍年。石井竜也は、
ドラゴンとアジアのエネルギーをもとに
ビッグ・プロジェクトを立ち上げる。
“あ、ここにオレがいる”——DRAGASIAを
そんな発見の町にしたいんだ——彼はそう語った。

アジアという、このカタカナにして3文字の言葉には、独特の湿り気がある。欧米を旅行して帰ったとき、日本の空港で感じる、あの湿った空気が、そんなある種重たげな空気のせいだろうか。西洋文化が大陸から大陸へと自由に羽を広げていったのに対して、アジアの文化はいつもそこにあり、ただ静かなる熱気の中で混沌を増していくばかりだ。そして、そんなアジアにこそエネルギーとルーツを感じるんだ、と彼は言う。彼とは、石井竜也。ミュージシャン、アーティスト、映像作家・とマルチな才能を発揮し、今回、総合プロデューサーとしてこのビッグ・イベントを手掛ける才人。思えば、米米C・L・U・Bとしてデビュー以来、我々は彼が次々と仕掛ける翼に落ち、彼の手のひらから生まれる芸術、あるいは魔法に魅了され、ときに快くだまされてきた、という気がする。となれば、彼の次なるギミックに興味は津々。折よく、今回の準備のためにグランシップを訪れた彼にその「思惑」などを訊いてみた。

——グランシップにいらしたのは、今回が初めてではないそうですが

「昨年も来ます。今回の下見にね、最初見たとき、とんでもないものができたな、と。(笑)先端部分が細いから初めはわからなかったけれど、実際に中に入るとびっくりするほど広いんですね。今日も富士山がよく見えますがこの富士山の裾野を海に見立ててそ

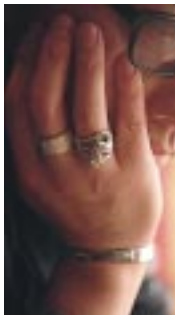
こに船を浮かべたかた建築家のキモチがよくわかります」

——ところで今回のDRAGASIA(ドラガスィア)というタイトルについてですけれど。

「これね、はじめはドラゴンとアジアで、DRAGON-ASIA(ドラゴン・エイジア)にしようと思っていたんですけど、でも、長過ぎるし、なんかスマートでカッコよくないやう。もっとガチャガチャしたカンジがほしかったんですね。ゴジラ、みたいな」

——サブタイトルの龍蛇楼(りゅうりや)るうも、なかなかイワクありますが「怪しげでしょう?」(笑) 龍はタツ年で今年、蛇は来年の干支ですから、つまり20世紀と21世紀がこの2文字にあるわけ。まあ、(なんだかんだ言ってもやっぱりリュウダロってとてもありますけど。(笑)アジアの力強さとか、気味悪さとか、底の深さとか、そういう濃い部分がこの2つの文字に潜んでると思うんですよ。今の若手奴らって、キレイな場所にあまり興味がないんじゃないかって、そういう気がするんですよ。だから、このグランシップを九龍(クイロン)城のように怪しげな場所に作りかえてみたいなと。異空間というか、オレ、変なところには迷いこんじゃったな、という、そういう空間にしたいんですよ」

彼の視線の先にはいつも摩訶不思議的な異世界が広がっている。アンモナ



GRAND VOYAGE FESTIVAL 2009
DRAGASTA
龍蛇棲
〜ユートピア誕生〜

イトや渦巻き、天使の羽、クロス(十字)をモチーフにした展覧会『未来遺跡展』『空想美術館』等に足を運んだ人ならわかるだろう。時間的、空間的、あるいはそうしたモノサシでは図るここのできないような遙かな世界を、いつだって彼は自分流に楽しんでいる。そして、今、彼の心をこらえるものは「アジア」。

——石井さんの眼に「アジア」はどんな風に映っていますか？

「混沌として、複雑なカンジ。だからこそ、アジアは今、経済的にも文化的にも元気づいているんじゃないかな。文

化って、理路整然としたところからは生まれてないでしょう？、やっぱり「モチャ」ちゃしているところから、フツフツと湧いてくるのが文化なんじゃないかと。原宿が一つのキレイなビルになってしまったら、誰も面白くない。あの路地の向こうになんか面白そうな雰囲気がある、そう思うから行くのであってね。海のモノでも山のモノでもつかないものの中から、「パワー」が生まれてる。まさにそれが「アジアのカッ」よさでしょ」

——近いうちにバリーに取材に行かれるとか。

「正直言うところ、これまでアジアに出掛ける機会があまりなかったんですよ。

で今回はテレビ局の協力もあるので、バリーで若いアーティスト達と「リポーター」シヨンしてようと思ってます。そこで自分の中に「アジアをちゃんと感じておきたい」と。この間、ニューヨークに行ってきた「フンデルト・ツッサー」という絵描きに会ってきたんだけど、何か一つのことをやり続けてきた人に会うと、触発されるんですよ。そんな出会いがバリーにもあるといいな、と思うてるんですけど」

——そのあたりの話は、今回のトークシヨでもつかがえそうですね。

「もちろん！アジアのモーターと、ウェルが一枚かかったような、夢うつつの話

ができたらいね。今考えているのは、例えば佐々木康宏さんや吉村作治さんのように、アジアに詳しい学者肌のゲストを招いて、その人を軸に、楽しいだけでなく、深い話をしたい。葉っぱの裏側には妖精が隠れている、みたいな話とか、アジアの精神、「口」の話とかね」

さて、今回のイベントでは、彼の「アジア観」の一つの象徴として、龍が登場する。といっても、これまでの彼の「コンサート」やプロジェクトにも、そのモチーフは度々顔を見せているのだが、本人も自分の名にちなんだそれには格別の思い入れがあるという。



混沌として複雑、海のモノとも山のモノともつかないものの中から、「パワー」が生まれてる。それが「アジアのカッ」よさでしょ。



僕の持つてる「アジア観」、それも研究し尽くしたものでなく、僕らの血の中に持つてる「アジア観」を「マーケット」の中で「イメージ」できたら。



——龍は、石井さんにとってどんな存在なんです？

「数年前に『河童』という映画を撮りましたけど、河童も龍も水神なんですね。河童が年を経ると龍になるという伝説もあって、僕にとって河童は龍を見越したものだっただけです。で、一口になって初めてのコンサートも、龍にちなんで、突き進む」という意味とをかけた『DRAGON』。米米CLUBのときも、タツノオトシゴをモチーフにしてツアーをやりました。自分にとって龍はいつも隣にいて、そういう存在ですね」

——で、その龍が今回はどんなカタチ

で現われるんですか。

「マーケットの中に確かに龍はシンボルとしてあるんですが、そのまま見せてしまうのも芸がないから、映像とか作りモノなどで龍を連想させるものを会場内に置いてみたい。で、オブジェを創るんですけど、龍の爪をモチーフに、4本の爪が1つの玉を押えているようなカタチですね。そこに立体音像が流れてきて、怪しい音がグルグル回ったり、龍の鳴き声みたいなものがフワッと聞こえてきたり。そういう不可思議な参加型のオブジェを創ります。それから全体的なトーンとしては、ジャンク船の帆が吊られていたり、イン

ド綿や練り香を売ってる店があったり、21世紀への願いを書いた短冊を結ぶ場所があったり、時折ダンサーが出てきて踊ったり。で、かいドラがあったりね。僕は小さいとき、お寺が好きで、なんで好きなんだろうと思うんだけど、金と黒のあのカンジと、何よりお寺には鳴らすものが多いんだよね。子供って鳴らすものが好きでしょ。そういう鳴りモノがそこそこ置かれていて、いろんな人が鳴らして楽しんでいると、全体としては何か一つの音楽になっているような、そういうマーケットを想像してんだ」

——そういえば、昨年制作された巨大

なマスク11点がすべて揃うのは、このイベントが初めてだそうです。」「そうそう。去年『ART NUDE』というシヨで制作したものなんだけど、1時間歌って、絵を1時間描くという、そういうパフォーマンスを毎年やっていて、去年は、仮面がテーマだったんです。コンサートは1回あったから、11点の仮面が完成して、せかくだからそれを並べてみよう。1つがすごく大きくて(高さ約2m)、これだけ並べられると、それは滅多にないもんね」

そして、彼の2000年の全国ツアーは、グランシップのコンサートでそ

【石井竜也 TATUYA Ishii】

文化学院在学中より米米CLUBとして活動開始。85年、『I・CAN・BE』でデビュー。その後、ヴォーカリストとして活動の他、コンサートの舞台、コスチュームデザイン、パンフレット、ツアーグッズ、レコードジャケットのデザイン及びレコードなどを手掛ける。92年、日本レコード大賞受賞。89年、90年にはMTV VIDEO MUSIC AWARDを2年連続受賞。アートの分野でも『石井竜也未来遺跡展』『PARALLEL WORLD 石井竜也空想美術館』等で作品を発表。94年、『河童』で映画監督としてデビュー。97年の米米CLUB解散後は、ソロとして活動。59年、茨城県生まれ。





◆1999年のショー『ART NUDE』で制作されたマスク11点が全部揃うのは、今回が初めて。



Program-1

3月25日チケット発売開始

GRANSHIP PRESENTS
TATUYA ISHII 2000 CONCERT TOUR

“DRAGASIA”

～Welcome to ASIAN DISCO～
4.29.sat.

全国14カ所・21公演が予定されている2000年コンサートツアーの初日を飾るライブ。ホットなアジアン・ディスコへ、いらっしゃい。

- グランシップ大ホール・海
- PM5:15開場 PM6:00開演
- 全席指定(税込)／6,300円
- グランシップ友の会先行予約日／3月11日

Program-2

4月2日チケット発売開始

TATUYA ISHII

“DRAGASIA” TALK SHOW

5.3.wed.

インドネシア・バリ島の話をもとに、石井流の楽しいトークで広がるアジアン・ワールド。ゲストもお楽しみ。

- グランシップ会議ホール・風
- 全席指定(税込)／3,500円
- グランシップ友の会先行予約日／3月18日

Program-3

TATUYA ISHII

“DRAGASIA” MARKET

5.3.wed.▶7.sun.

アートオブジェあり、ダンスあり、ショップあり…。一歩足を踏み入れたら、そこは怪しくて楽しい迷宮のマーケット。

- グランシップ大ホール・海、グランシップ広場
- AM10:00～PM5:00(最終日のみPM4:00まで)

Program-4

TATUYA ISHII

MOVIE COLLECTION

5.4.thu.▶7.sun.

石井竜也監督作品『河童』『ACRI』と未公開パブリック映像を上映。

- グランシップ会議ホール・風
- AM10:00～PM5:00(最終日のみPM4:00まで)

のスタートを切る。サブタイトルにあるように、それはまさに極彩色と熱気に包まれるアジアン・ディスコ。『パーティーというより、祭りだね』と彼も言う。

——ライブの演出、仕掛けの準備も着々と？

「今回は胡弓を入れたり、東洋風のダンスを取り入れたり。お客さんにも東洋風のカッコウを強要したりね。強引なコンサートを心掛けてますから。(笑)アオザイとか、チャイナドレスとかアジアにはカッコイドレスがいっぱいあるでしょう。グランシップ全体がジャンク船になり、アジアの文化の方舟になるわけ」

——2月にシングル、3月にはアルバムもリリースされますね。

「アルバムタイトルは『GUY』、つまり野郎だね。野郎って言葉が好きなんです。バカ野郎とか、あの野郎にやられちゃったよなんてね。日本の男たちって紳士になりすぎちゃったんじゃないかな。バブル時代の男は特にね

トークショーでは、アジアの夢うつつの話がしたい。葉っぱのウラに妖精が隠れてる、みたいな。アジアの精神とか、『口』の話。

でも今の十代の男の『』たちは野郎度が増してて、カッコイと思いますよ。『プロモーション・ビデオでは香港の怪しげなディスコが舞台となってますが。

「魑魅魍魎とした怪しげな映像に仕上がりましたよ。とにかく今は自分のまわりをアジア色に塗り替える最中なんです。だからこのグランシップの龍蛇楼も、僕の持つてるアジア観、それも研究し尽くしたものではありません。僕たちの血の中に持つてるアジア観、バラ色の赤よりも朱赤、真黒よりも墨黒

ややグレイに転んだ黒のほっかがキレイだな、と思うキモチってあるじゃないですか。そういう感覚を大切にしたい。あまり根掘り葉掘り追求しないで、アジアのイメージを『ライジユ』したそういう場所ができるといいなと思います」

——最後に総合プロモーターとして抱負を一言。

「まず、このDRAGASIAという小さな町を発見の町にしたいんです。あそこにはオレがいる、オレもアジア人だ、なんだというね。アジア人としての日本人という意識が僕らの中に出

てくるとカッコイ民族になるとホント思ってるんですよ。21世紀を迎える節目にもう一度、自分たち民族のこゝと日本のこゝと、自分のことを考え直してもいいんじゃないかな。僕としても見る、聞く、買う、参加する、匂いも感じるという、五感を非常に刺激するイベントに仕立てていくつもりだし、なんたって石井はハンパなとはしませんが。(笑)参加とか、そういう二次的なものじゃなくて、体感する、溶け込む、そういう意識でぜひ覚悟して来ていただきたいと思います」

アニバーサリー対談 女優 藤田弓子×山本 肇

グランシップこの一年。

「人と人をつなぐ絆としての文化を発信したい」
ホールの舵取りに携わる二人が語るグランシップの一年。そして、これから。



藤田 開館一周年おめでとうございます。

山本 ありがとうございます。

藤田 さぞかしお忙しかったと思いますが、どのような1年間でしたらっしゃいましたか。

山本 とにかく不況の真っただ中での出発でしたので、船の如きこのホールが果たして無事に出帆できるのか、お客さんが来てくれるのか、最初は本当に不安でしたね。

藤田 そうでしたでしょう。館長さんは船長さんみたいなものでものね。

山本 しかし、いざ始まってみると、お客さんの入りがいいいですね。ここに興味を持って来てくださる方が予想以上に多くて、私どもにしても先鞭をつけることで、文化を発信する拠点としてはとても大事なことですよね。

山本 本当にそう思いますね。春に展示ギャラリーで『ピュリツァー賞写真展』を開催したのですが、全国巡回の最後の展覧会にもかかわらず、21日間で9万4千人が見に来てくださった。とくに若い男女が目につきましたね。

藤田 それは素晴らしい。

山本 しかも彼らは知らないんですよ、ああいう歴史的な事件を。

藤田 それでも見てみようと思うなんて、世の中まだまだ捨てたものじゃないですね。

山本 なかには涙を流している人までいて、ある意味で衝撃を与えたんだと思うですね。それが口コミで伝わって、結果9万人になったと。
藤田 今の時代は若い人は若い人同士、年寄りは年寄同士で話をして、お互いの交流がないから、年寄の経験とか見識といったものが次の世代に伝わらないんですね。でも、こうした写真展一つで若者が何かを感じ、大人たちが何を言いたかったのか、わかる。そうしたチカラは侮れないな、と本当に思います。

れば、望外の幸せでしたね。

藤田 本当に順調な滑り出しでしたね。

山本 しかもこれに続いて、グランシップの中ホールや静岡芸術劇場を中心にした『シアター・オリンピックス』（主催：第2回シアター・オリンピックス実行委員会）も始まりまして。世界20カ国から42の舞台芸術作品が静岡に集まったんですね。ただ、これも最初は心配していたんです。静岡県には舞台芸術に馴染みのない方も多いですから。けれど、

本物の凄さ、一流の凄さといえますか、県民がどんどん惹きつけられていったような、そんな盛り上がり方で、2ヵ月間でおよそ7万5千人の観客がありました。藤田さんが関わっておられる葦山時代劇場でも能を上演されましたが、これは単なるイベントの成功にとどまらず、静岡県が掲げる舞台芸術振興という面でいきつけを作ったと思ってるんです。県民が舞台芸術の面白さを知ったということですね。

藤田 まず県民の目をこちらに向かせる、ということが大事ですね。ね。先ほどの建物の中を拝見させ

ていただきましたが、実際のところ、これらの施設はどの程度利用されているのですか。

山本 たとえば大ホールですと、この1年間の稼働率は7割を超えていますね。

藤田 凄い！そんなところ、ないですよ。

山本 私もビックリしているんです。

大ホールは主に展示会や学会などに使われていますが、自主企画事業としては藤井フミヤさんのコンサートや引田天功さんのマジックショーなどをやりましたし、近い将来には大相撲で使っていたく予定もあります。

藤田 大相撲はいいですね。天井も

山本 オープン時には『アニメーションワークス』というイベントで、世界に誇る日本のアニメを一堂に集めたんです。過去の作品から現在のデジタルアニメまでをスラリとね。

藤田 これからの観客である子供

さんをまず惹きつけたわけですね。

山本 お父さん、お母さんがだいたい30代から40代でしょう。ですから、子供より親が夢中になってしまつてね。迷子がいっぱい出たんですよ。そ

れも親が子供を探すのではなくて、子供が親を探すという、そういうア

ナウンスを随分しました。（笑）

藤田 おそらく私もそのクチですね。（笑）

山本 それから目立たない地味な企画ですが、昨年『しずおか連詩の会』というのをやまして。

藤田 私は俳句をやっております

で連句はわかりますが、連詩ですか。

山本 詩人の大岡信さんが中心になって、日本の詩人3人とドイツの詩人2人の5人で詩をリレーしているんですね。

藤田 前の詩の思いや風を織り込んで？ まあ、面白いですね。

山本 日本平に3日間こもって創作した作品を、グランシップの交流ホールで発表していただいたんです。詩人たちがどうしてこういう詩を作ったのかという、解説付きでね。

藤田 へえ、そんなことをやったんですね。とても興味あるなあ。

山本 今年は中国の詩人をお招きする予定ですので、ぜひ、いらしてください。

藤田 わあ、楽しみにしています。いろんな興味のタネを撒くというか、

グランシップイベントこの一年。

1999.3 ▶ 2000.2



99デジタルグランボヤッジ
FUMIYA FUJII CONCERT
TOUR1999
大ホールの大空間を活かしたステージに、観客のボルテージも最高潮となった。



99デジタルグランボヤッジ
Fumiart GRANVOYAGE
藤井フミヤによるCGアート展。今回のために新作も制作された。



99デジタルグランボヤッジ
sing 99
デジタルアートのコンペ&ワークショップ。江並直美、日比野克彦、中島信也、藤井フミヤが顔を揃えた。



グランボヤッジフェスティバル
99デジタルグランボヤッジ
10.2～11 大ホール・海、
会議ホール・風ほか
藤井フミヤをナビゲーターに、次世代に向けてデジタルな刺激を発信した。



Moving Music Express
8.21 大ホール・海
世界初の動く音楽パフォーマンス。朗読に榎本孝明を迎え、県民500名が参加。



グランシップ静岡能
6.26 中ホール・大地
静岡県能楽鑑賞会寄贈の能舞台のこけら落とし公演。観世清和による『翁』で幕を開けた。



プリンセスTENKO
スーパーイリュージョン
5.1～5 大ホール・海
華やかで多彩なマジックレビューショーにゴールデンウィークの大ホールが沸いた。



ピュリツァー賞写真展
4.17～5.7 6階展示ギャラリー
1942～97年の間に受賞した報道写真約230点を集め、シンポジウムも開催。



第2回シアター・オリンピックス
4.16～6.13 静岡芸術劇場ほか
県内16会場で開催。20カ国が参加し、7万5千人以上の観客を動員した。（主催：第2回シアター・オリンピックス実行委員会）



バルーンアート・フェスティバル
4.16～25 大ホール・海、
10階会議室ほか
ウォーホル、草間彌生らの作品を集めた世界初のバルーン美術作品展に5万人以上が来場。



中村絃子ピアノリサイタル
4.6 中ホール・大地
中ホールのこけら落とし公演。デビュー40周年を迎えた世界的ピアニストの名演を堪能。



アニメーションワークス
3.20～4.4 大ホール・海、
中ホール・大地
創世期作品から最新作まで日本のアニメーションを紹介。延べ13万人が来場した。



開館記念式典
3.13 大ホール・海
公募抽選による県民2,800人と来賓700人が招かれ、出航を祝った。



Hajime Yamamoto



Yumiko Fujita

藤田 それは声を大にして、ぜひ、言っていたきたいですね。
山本 ここで藤田さんは東京から蕪山に移ってこられました。静岡県をどのようにご覧になってますか。
藤田 日本は東京一極集中みたいなところがありますが、ここからでも何か発信できるんじゃないかと、幸い主人が作家で、私が女優ということですので、(蕪山時代劇場の付属の)劇団もできましたから。この劇団も通常の公演だけでなく、シンポ

山本 ほかに若い人たちにに向けて発信した企画としては、『輝橋』というのがありました。
藤田 キハシ? 何ですか、それ。
山本 大ホールのおよそ60mという天井高を活かして、上から光のシャワーを降らせました。その中で模倣結婚式を挙げたんです。実は秋にグランシップのプロキョションアイデアを募集したんですが、そのグランブリがこの『輝橋』だったんです。
藤田 歌舞伎のときに雪や桜を降らせるような感じかしら。
山本 うーん、もっとゆっくりでフワッとした感じで、非常に幻想的で、いやあ、お見せしたかったなあ。
藤田 本当に。でも、そんな風に若い人が参加できるっていいことですね。
山本 グランブリには予算を300万円つけたんです。
藤田 あ、それいい。蕪山時代劇場でもやろうっと。もう、発表会やシンポジウムやるだけじゃ、ダメなんで

ただ見るだけでなく、参加してみたい。
そうおもわせたら、こっちのものですから。

数字だけじゃはかれないものをこそ大切にしたいと思いますね。

ジウムがあれば、その中でお芝居をやって問題提起したり。また、来年は江川太郎左衛門の生誕200年です。で、文化財である江川邸で芝居を上演しよう。そんな風に町で劇団を活用してもらえそうです。
山本 劇団が単に芝居をやるだけじゃなくて、地域の活動の中に入っていくわけですね。
藤田 はい、地域振興のために、いい活性剤になってるような気がしますね。

すよ。ただ見るだけでなく、参加してみたいって思わせたら、こっちのものですから。それにそういう若い人の活躍を楽しそうにお話してください。館長さんも素晴らしいなって思いますよ。そもそも私、公立の施設の館長さんにお役所の方ではない、山本さんのような外部の方が就任されたことって、素晴らしいと思っただけです。県がこの施設をどうしたいかという意気込みが伝わってくるように思います。
山本 そう言っていたら嬉しのですが、私としても自分に何を求められているかを考えましてね。それはおそらくお役所でない、そういう姿勢であろうと。ですから、スタッフにいつも言ってるんです。「気配り、親切、柔軟に」と。
藤田 「気配り」と「親切」はなんとかできても、「柔軟」っていうのが従来の公共施設には欠けていたところかもしれないね。

藤田弓子【ふじたゆみこ】
66年、文学座に入団。68年にNHK朝の連続テレビ小説『あしたこそ』のヒロインを演じ、お茶の間の人気を集める。71年に文学座を退団し、その後、映画・テレビ・舞台等で活躍。85年、映画『さびしんぼう』でキネマ旬報助演女優賞、日本アカデミー賞優秀助演女優賞を受賞。主な出演映画作品に『泥の河』など。蕪山町に居を構えてからは静岡県に関わり深く、蕪山時代劇場のこけら落とし公演に夫婦そろって協力。町民参加の創作オペラ『頼朝』を地域一体となって成功させる。蕪山時代劇場の付属劇団の座長でもあり、3月24・25日に開催する「時代の回転木馬(ときのカルーセル)」でも演出・出演をこなす。45年、東京都生まれ。

山本 お陰さまでここを利用してくださる方の評判がいいんです。融通がきくと。特に使用時間ですね。こは開館時間が午前9時から夜10時ですが、仕込み、撤去等での時間を超えてしまう場合も大丈夫です。
藤田 まあ、なんて柔軟なんですよ！
山本 そのかわりスタッフは大変です。けど。
藤田 実際、一つの芸術を創るには時間が必要なことってあるんです。なにに使用時間に縛られて、私も随分泣いてきました。
山本 それからここにはサポーターというボランティアの方が150人ほどいるんです。たとえばイベントのレセプションの仕事や館内の見学ガイド等を受け持っていたらいいんです。が、この方たちの親戚で柔軟な対応ぶりも、グランシップの評価を高める大きな因になっていると思うんです。
藤田 ここが大きな船で、館長さん

山本 旗揚げのときのオペラ『頼朝』の成功も大きかったんじゃないですか。
藤田 あれで気運がグンと高まった、町民の意識が変わったという気はしますね。
山本 グランシップでも県民オペラのようなものをやりたいなと思ってるんですが、今後はとくに人と人とのふれあい、絆としての文化が大事になっていく、求められていくと思うんです。ね。そして、そうした期待にど

が船長だとすると、船をちゃんと漕いでくれる人は必要ですものね。同じ船に乗る仲間を意味するエキップという言葉が、私は好きなんですけど、同じ目的に向かってみんなで一緒に漕いでいくって、素敵なことですよ。
山本 もちろんトイレや駐車場など、改良すべき点、反省すべき点もありますが、試行錯誤してやっていくしかないと思ってるんです。何がベストか、何が県民の心に響くのか、そういうことは数学の解答のようにすぐに出てくるものではないですから。
藤田 内容がいいのに思うようにお客さんが集まらない、ということもあるじゃないですか。ある程度覚悟して続けることも重要ですよ。

山本 こういうホールの評価の仕方って幾つかあると思うんですよ。入場者数とか、利用率とかね。でも、そういう数字だけじゃ測れないものってあるでしょう。少なくとも我々はそれだけじゃない、中身だ、質だ、と。

う応えていくかが私たちの使命だと。
藤田 そんなグランシップの、大きな船の後ろを蕪山時代劇場という小さな船がついていたら、と思います。
山本 何をおっしゃいますか。そちらのほうが先輩じゃないですか。(笑)
藤田 一緒にいい船旅ができると思います。
山本 本当に。これからもよろしくお願いします。
藤田 こちらこそ、どうぞよろしくお願いします。



初笑い! グランシップ正月寄席
1.8 中ホール・大地
昼は抱腹絶倒の独演会、夜は静岡県出身噺家による名人寄席と、2本立ての企画で開催。



ふじのくに新春コンサート
1.5 中ホール・大地
静岡県音楽コンクール、静岡県学生音楽コンクールに入賞し、現在活躍中の7名による里帰りコンサート。



英国女王陛下の近衛軍楽隊&ミニ英国フェア
10.23 大ホール・海
熊皮の帽子、真紅の礼装の軍楽隊コールドストリーム・ガーズ・バンドのスーパーパフォーマンス。



クラシック・サロン
交流ホール
週末の午後、3回シリーズで開催。毎回趣向をかえて登場する宮廷菓子も大好評に。



ミレニアム・ジャーニー
音楽物語「スノーマン」
12.24
イヴの夜、世界中で愛されるアニメを素敵な映像とオーケストラ、歌で楽しんだ。



1999年しずおか 連詩の会
11.3 交流ホール
日独5人の詩人が日本平で連詩を創作。作品「闇にひそむ光」がグランシップで発表された。



ミレニアム・ジャーニー
1999-2000 光の千年紀
11.26~1.10 大ホール・海、3階ロビーほか
イルミネーションガーデンやオープンコンサートのほか、アーティストたちも参加。



ジャズ・ライブ
1001会議室ほか
日本を代表する実力派女性プレイヤーをフューチャー。金曜の夜、4回シリーズで開催。



ミレニアム・ジャーニー
「恋・輝橋」
sing 99のグランプリ・アイデアを実現。聖夜の大ホールに光が舞い降りた。



文化の広場
7.30~31 9.23~25
大ホール・海、グランシップ広場
フリーマーケットやコンサートステージなど、県民の、県民による、県民のためのグランシップ開放デー。



ミレニアム・ジャーニー
「PROJECTOR PROJECT
〜いつも頭の上から見られている。〜」
日比野克彦の原画32枚を天井に上映。古川聖も音楽で参加。絵と音の協奏システムをつくりあげた。



築地秀男さん
平常業務担当 第1期サポーター。
「私たちの世代には、グランシップというのはまだまだ遠い存在なんです。その距離を縮めていくことも私たちサポーターの使命だと思っています」

——サポーターとして本格的に活動して1年。正直なところ、いかがでしたでしょうか。

築地 私は平常業務の担当ですが、新聞記事の切り抜き、館内見学のガイド等を務めています。案内はみんななんとかスムーズにできるようになりましたね。

海野(恵) 実際に活動が始まってみると、予想外のことが起こったり、いろいろありましたが、そんな中でもみなさんは前向きに取り組んでくださって。たとえば築地さんは見学のガイドのシナリオを現場に即して改良したり、自分たちのガイドぶりがどうだったかアンケートを作るなど、より良くするためにどうしたらいいかを常に考えてくださっていて、静岡県文化財団としては本当に感謝しています。

築地 オープン当初は当然ですが、一時少なくなったグランシップ関連の記事も、後半はコンスタントに掲載されるようになっていきますね。
森兼 新聞を見て、グの字がつけば

グランシップの記事かと、条件反射のようにそこに目が行くようになってきました。(笑)

海野(朋) 静岡県の、というよりもっと身近な感覚、自分たちのグランシップという感じです。

内藤 サポーターになったことを友達に話したら、情報を流してね、なんて頼まれたりして。私たち世代はとくにそうした機会を切望しているところがありますから。

海野(恵) 私たちのほうでもマスコミなどを通じて広報活動をしていきますが、サポーターさんもお友達にグランシップのことを理解してもら

研修期間、テストランを経て、グランシップ開館とともに始動した
グランシップサポーター。ときに悩み、共に喜び、助けあいがらの1年を
サポーターたちは口を揃えて「楽しかった」と語ってくれた。



サポーターこの一年

県民が参加して盛り上げていくこの姿は理想的だと思いますね。
海野(恵) そんな風に若い方が言うてくださると、なんだか嬉しいですね。
山本 私はサポーターとしてはもちろん、一県民としてグランシップを大いに楽しみたいと思っているんです。
海野(恵) グランシップとしてもできるだけ幅広い年代の方々に足を運んでいただきたいと思っています。来年度の催しも、お子さんから若い方、大人の対象のものまで様々なものを予定しています。

青島 小さいうちからプロの演奏や舞台が聴ける、見れるというのは財産ですからね。子供たち向けの催事も増やしていただきたいですね。
海野(恵) 小さいときから文化に親しんでもらえるような土壌づくり、これこそ、堅い言葉ですが「文化振興」であり、まさに私たちがやるべきことだと思っています。

築地 館内案内では小学生の参加が多くて、みんな楽しそうに熱心に見てまわるんですよ。うるさいぐ

らいに質問も多いし。(笑) 私たちとしても非常に気合いが入るお客さんですね。

——第3期からは撮影業務も加わって、2月に行なわれたクラシック・サロンがデビューとなったそうです。
青島 撮影業務というのは、いきなり本番になるものですから、頭でわかっていてもなかなかうまく行動できなくて。人を撮影するときでもあまり近づかないとか、通路に器材を置かないとか、諸注意を受けまして、そのときは少しとまどいました

が、結局はこちらの良心の問題ですから、楽しんでやればいいんだと頭を切り替えることにしました。

えるようPRしてくださったり、近所の公民館などにチラシを持って行つてくださったり、病院にポスターの掲出をお願いしてくださったり。当初からみなさんには県民の方とグランシップの間の橋渡しをしていただきたいと願っていました。その通りの役目を、しかも自発的に担っていただいていたいなと思っています。

——内藤さんは築地さんと同じ平常業務の担当ですが、第3期サポーターということですから、実務的にはスタートしたばかりですね。
内藤 ええ。新聞の切り抜きとか、

パンフレットの発送などですが、音楽や芸術は好きな分野ですので楽しくやっています。築地さん達が作ってくださったシナリオもできるだけ早く習得したいと思っています。

——さて、この1年はオープンイヤーということもあり、多くのイベントが行なわれましたが、そうしたイベントでお客さまをアテンドする森兼さんの1年はいかがでしたか。
森兼 これが本当に楽しいですね。毎日でもいいぐらい。(笑)でも、最初はこうしてあげよう、ああしてあげたいという気負いがありすぎて、要らないお世話もあったかも。それがこの頃ようやく自然にできるようになった気がします。最近では仲間内で出過ぎたところはお互い注意しあおうね、と言っているんですが、
山本 私はまだ研修中ですが、今のお話を聞いていると、ボランティアとは思えないほど。日本にはボランティア精神がないと大学で学びましたが、ここは全然違うんですね。建物を行政が造っておしまいでなくて

築地 ああいう場所での撮影はほんト難しいね。
青島 そうですね。でも、そのうち慣れるだろうと思ってるんですけど。気持ちよくゆったり楽しんでいただくという点で、とくに小さなお子さまを持つご両親には託児サービスも大きな手助けですよ。

海野(恵) 最初のうちは託児室の利用は少なかったんですが、だんだん定着してきて、リピーターされる方も多くなりましたね。子供を預かるということには責任もありますし、私自身、資格と経験を持つプロですが、何よりも自分をより高めたいという気持ちでお手伝いさせて

青島英子さん
撮影業務担当 第3期サポーター。
「きょうはいろんな立場の、いろんな意見が聞けてよかったです。いい現場をつくるためにも、今後もっと意見交換できたらいいですね」



海野朋子さん

託児業務担当。第2期サポーター。
「お母さま達が迎えにいらしても、まだ遊んでいたいという子供も多くて。ご両親と子供、それぞれに楽しい時間を過ごしてもらえる、ということが喜びですね」



内藤かつ代さん

平常業務担当。第3期サポーター。
「自分にどれだけのことができるかまだわかりませんが、好きな分野でするので楽しみながら、なおかつお役に立てたいのですが」



森兼敬子さん
イベント業務担当。第2期サポーター。
「どこからでもどこへでも行けるグランシップの裏動線にはビックリ。サポーターになって初めての建物の凄さを知りました」

山本陽子さん
イベント業務担当。第3期サポーター。
「もうすぐ実地研修ということでイベントに立ち合う予定ですが、きょうのお話でもっと楽しになりました」



海野薫さん

(財)静岡県文化財団 企画広報課。
「サポーターさんたちには、とにかく楽しいという気持ちで活動に参加していただきたいと考えていましたので、そういう感想を皆さんからいただき、本当にうれしく思っています」

